

# 夢塾だより

## ～ 塾生と私の成長の日々 ～

(第27号) 令和元年10月24日

彼女(Kさん)の質問の解答と解説にアプローチを変え、視点を変え、別の言葉を選び、声のトーンを変え、図を加え、角度を変え、何度も語気をあげたりします。かなりの時間を要しますが、「わかりました」とすっきりした笑顔で応えてくれます。そのときの私の安堵感と彼女の満足感。二年近く彼女を見ているので性格も思考回路も手に取るように分かったつもりでも教えることは容易ではありません。少しでも曇った部分があると決して分かったとは言いません。自分をごまかさない部分は伸びる要素でもあります。それでも新しい分野になると次の疑問に出くわします。やはり手間がかかり時間がかかります。毎日そのような日々の繰り返しです。彼女は一日も休まず定刻には必ず自分の所定の机の前にいます。三時間は塾にいます。成績も学校ではトップクラスになりました。彼女が昨年4月に母親に連れられ初めて塾に来た日の母親の言葉が今でも鮮明に残っています。「この子には先生、ゆっくり教えてあげてください」



進学校に通っている高校二年生のAさん。「本当は一年生の時から塾に入りたいのですが、なかなか親に言えなくて、二年の1学期の中間試験が21点しかなくこれではやばいと思い切って親にお願いしました」と7月から入塾しました。つまずいている箇所からひとつひとつ、絡んでもつれた糸を解きほぐすように丁寧にやさしく導き、理論的に体系的に進めていきます。「今までこんなに勉強したことはありません。家でも勉強するようになりました。学校でも数学の時間が苦痛ではなくなりました。こんなことなら前から夢塾にはいっておけばよかった」と話してくれる彼女の居場所ができました。自分自身に自信が持てるようになりました。二学期の中間試験で139点(200点満点)取れました。明るくなりました。



人生の最も大切な「生き方」を吸収する貴重な時期にこそ、心のかよう手作りの教室があってもいいと思います。学んでくれる塾生に感謝しています。通わせてくださる親御さんにも感謝します。私の方が多くのことを学ばせてもらい、素敵な時間を過ごさせてもらっています。感謝です。